

みなとメディアミュージアム2016 報告会

アートは地域を変えられる

MMM

みなとメディアミュージアム

今回の全体の流れ

2

1. 今年度のMMM 2016について
2. 来年度のMMM 2017について
3. 来年度に向けての
アイデアトーク・話し合い

みなとメディアミュージアムとは

3

- 地域密着の小規模アートプロジェクト
- 2009年創設
- 茨城県ひたちなか市那珂湊地区で実施
- 毎年8月の約1ヶ月間作品展示を行う
- アーティストを招聘して
地域の魅力を引き出すような作品の展示
ワークショップなどを行う

MMM2016に
ついて

MMM2016について：もくじ

5

1. MMM今年度の概要
2. 来場者数
3. 学校連携WSの報告
4. 今年度受賞作品について
5. 産業交流フェアの様模様
6. 観光案内板について

(収支報告は別資料となります)

MMM2016概要

6

展示会名	みなとメディアミュージアム2016
会期	2016年8月7日(日)～8月28日(日) ※毎水曜休み ※観覧料無料
会場	ひたちなか海浜鉄道湊線車両／駅構内、 那珂湊地区商店街
主催	みなとメディアミュージアム実行委員会
共催	宝塚大学東京メディア芸術学部、常磐大学
後援	ひたちなか市、ひたちなか海浜鉄道株式会社、おらが湊鐵道応援団、ひたちなか商工会議所

約2700人

延べ人数・推計

会計報告について

8

- 2016年度（単年度）では77,617円の赤字
- 繰越金で全体としての資産はプラス

会計：支出の部

支出の部		
項目	金額	備考
1.運営		
スタッフ交通費	463998	
ミーティング等経費	61172	
web関係維持費	10000	
ゲストハウス運営費	76380	
2.広報		
広報物印刷費	152210	
広報物発送費	35285	
公募関係経費	54540	
3.キュレーション		
制作支援金	285000	
賞金・審査員謝礼等	130000	
会場設営費	21916	
会場賃貸料他	96200	
運営設営費	77997	おさむシアター関連
合計	1464698	

会計：収入の部

10

収入の部		
項目	金額	備考
1.協賛金等	989500	
2.事業収益		
グッズ売上等	8865	
ひたちなか産業交流フェア運営依託収益	20000	
観光案内板制作事業収益	234600	
クラウドファンディング収益	22676	
3.助成金等		
sfc助成金	91440	
常磐大学助成金	20000	
合計	1387081	

今年度の学校連携WSについて

11



学校連携WS概要

12

- 開催日時：2016年6月30日 2時限の間
- 場所：那珂湊第一小学校
- 人数構成：4,5年生の児童
(約100名) を3グループに分割
- 3つのワークショップを実施

3つのワークショップ

13

1. BANKOKKI - 43

- ▶ 子供たちが家庭から持ってきた多様な布切れを万国旗として旗にする。MMMの開催を表す目印。

2. 那珂湊DCヘッドマークWS - 宝塚大学

- ▶ スタッフとの対話の中で読み手を特定しない「宛名の無い手紙」を書くワークショップ。

3. 那珂湊はいいぞ！ - 中村やす

- ▶ 「那珂湊のいいところ、好きなところ」を書いてもらい、商店街を彩る旗。

1 . BANKOKKI

14



2. 那珂湊DCヘッドマークWS

15



3. 那珂湊はいいぞ！

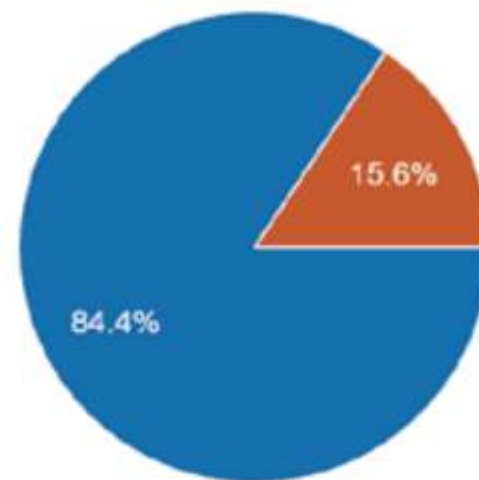
16



今年度の改善点

17

- 児童に配布した資料でワークショップの告知等も実施
- 親御さんに渡していっしょに見てもらうことを促す内容



街中に自分の作品が
展示されますが、
見に行きたいですか？
84%が「はい」

継続参加の作家さん：43

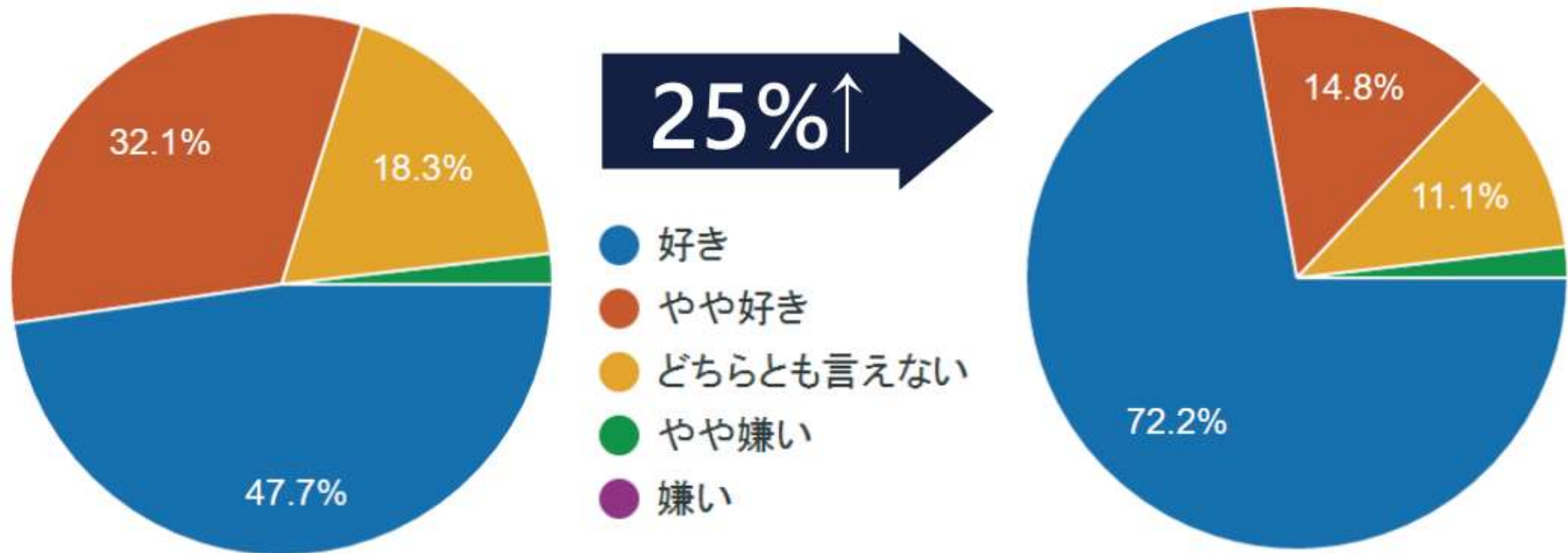
18

■ 去年好評価だった地図の作品「10maps」



子供たちの街への愛着の高まり 19

授業前後の「なかみたとへの思い」の変化



児童の声（アンケートより）

20

- ▶ 「お兄さん、お姉さん達がやさしくしてくれて楽しかったです。またやりたいです。」
- ▶ 「きれいにぬえてうれしかったし、やっている時もとっても楽しかったです。自分の作品を見にいくのが楽しみです。
今日ありがとうございました。」
- ▶ 「私は、さいほうが苦手だったけど、今日、やさしいお兄さんやお姉さんに、教えてもらったから、さいほうが、好きになった。今日やった、工作は、どちらも、すごく楽しかった。この時間でMMMの事がよく分かった。またMMMが、学校に来てくれたら、うれしい！」
- ▶ 「MMMもとから すき うれしい」

その他開催ワークショップ

21

■ 3つのワークショップを実施した



ワークショップ、参加者募集中!

ワークショップ名	開催日時
流木でカモメを作ろうWS	7月30日(土) / 31日(日)
※要事前申込 那珂湊DCヘッドマークWS	8月8日(月) 11:30- / 15:30-
なづけワークショップ	8月16日(火) 14:00-

MMM2016受賞作品について

22

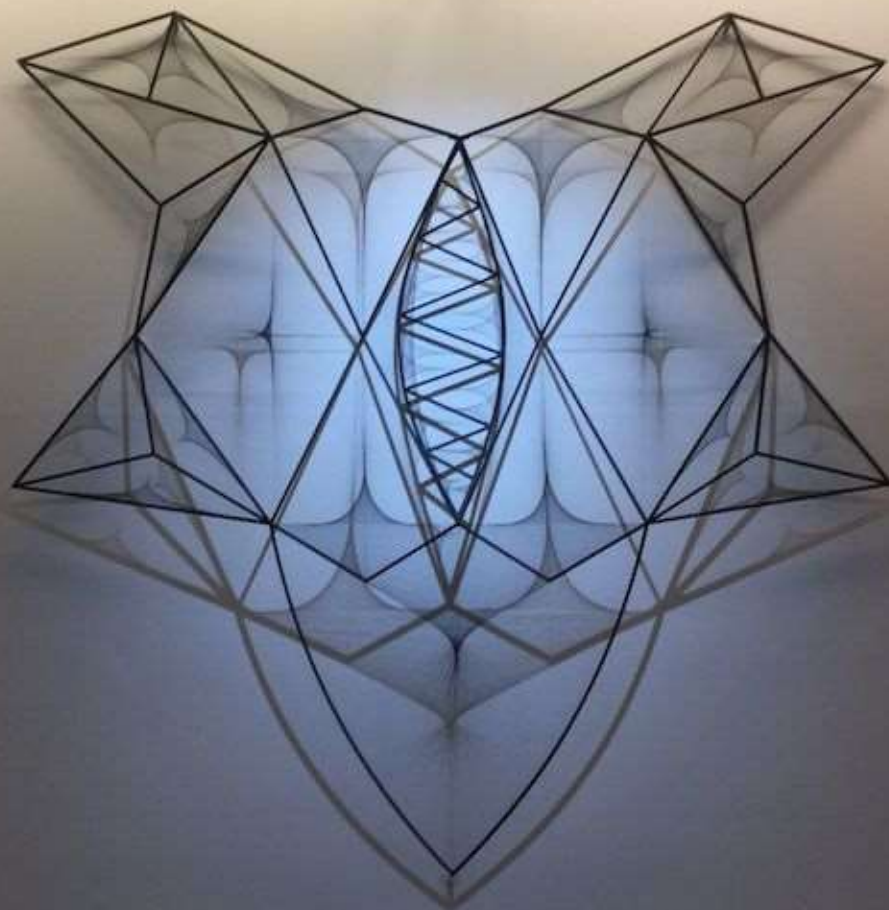


大賞

「構造の表象」後藤 宙



ミッドタウンアワードでも大賞 24



審査員賞

「構造の表象」後藤 宙



地域賞

SSS賞

「プラスチックプラクティス」臼田 那智



SSS賞とは？

27

- Special award from Students and Supervisor賞
- 今年度から始まった新設の賞
- 今年度に新たに参加したMMMメンバーを中心に審査する
- 狙い1：新しい視点で作家・作品を評価すること
- 狙い2：審査の中で作品を深く検討することで新メンバーの学習に

かき氷

■ 最終日には
感謝を込め
かき氷配布の
イベント開催。
■ 制作にご協力
頂いた多くの
皆様にお越し
いただきました。

無料!!

8/28 (日)
10:00~16:00
なくなり次第終了!!

かき氷

で配っています!!

アートイベント
みなとメデアミューシウム
同時開催中!

屋台にて
かき氷配ります!
どなたも自由に
お越し下さい!
味:各種

場所:百華蔵前 那珂湊駅徒歩1分
駅から見える場所にあります。駅をぐるっと回ってお越し下さい!
ひたちなか市釈迦町23-1

来年の展示に向けて保存中

29

■ ご協力頂いた皆様、有難うございました。



来年の展示について

30

- 夏の何かの祭りの際に展示
- 山車は、ワークショップ形式で子どもと飾り付ける
- 準備について
ご協力ご検討頂ければ幸いです。
- 3月、4月くらいから始動予定

プラスチック プラクティス プロジェクト（臼田那智）

31

- プラスチックプラクティスは私が作る造語で、見せかけの仕来たりという意味。
- 2016年8月のみなとメディアミュージアムにて、「プラスチックプラクティス」という作品を作った。
- 那珂湊で代々続く八朔祭りとの出会い、伝統を繋げていく行為について考えた。八朔祭りのDVDで、子どもたちが無邪気にはしゃいでいる姿を目にし、意味をよく知らないまま継続して参加することで、体に染み付いていくのが伝統なのではないか、とすると、伝統の意味について拘る必要は実はないのではないか、そんなことを思った。
- その考えから、よそ者の私が、八朔祭りという地域に根付く伝統神事に、形から入ることで近づこうと、プラスチックプラクティスというタイトルを付け、八朔祭りの風流物の屋台を、見様見真似で作った。
- 見様見真似の屋台を作ることで、伝統や祭りのイメージが私の体に染み付きつつあった。プラスチックプラクティスを通し、人が集まること、人が出会うこと、それがどんなに大切なことなのかを実感し、2017年の本祭に向けて、人が集まる、人が出会う、楽しい場をつくりたいと思った。

■ 1～3月

- ▶ 去年の屋台を解体し、小さいサイズで奥行きある屋台をガレージの中で作り直す

■ 4～6月

- ▶ 屋台に飾り付けするものをつくる
ワークショップを実施したい
- ▶ 幼稚園・保育園・児童館・小学校など

■ 7～8月

- ▶ 八朔祭りは難しいので、
他の夏祭り等で、みんなで屋台を出したい

地域賞

「対峙した 場所」森田 柁



「あなたの隣」白石 綾



「カモメをつくろう 2016」
松井 ゆめ



地域賞

「episode」山本 大樹



「き、こえ。ないのは、誰か」
ツチ屋



地域賞

「飛松・飛梅伝説」小山 和則



「那珂湊松物語」木内 祐子



■ SFC教授 小川克彦氏のコメント (Facebookより引用)

- ▶ “8年目にしてMMMは1サイクルして次の段階になったのではないか！と思う。”
- ▶ “山本さんによる地元の高校生の写真、木内さんによる商店街の人たちの出演する映像など。私のようなよそ者でも作品の素朴さの中に地元の暖かさを感じる。”
- ▶ “地元の人がアーティストとして参加するだけでなく、よそ者アーティストの作品の「中」に地元の人たちが参加することで、新たな視線で地域をみることができる。そこが次の段階ということだ。”

住民の方々が登場する作品（抜粋）

37



■ 那珂湊松物語 - 木内祐子

▶ 那珂湊地域の方々が登場する映像



■ episode - 山本大樹

▶ 湊線沿線で高校生を取材・撮影



■ 「き、こえ。ないのは、誰か」 - ツチ屋

▶ 3.11について、お魚市場で調査

作家さんへのインタビューを実施 38

- キュレーターの田口茜が冊子を作成
- アクセス：MMMのHP→MMMとは→MMM資料集



世の中になぜ優等生にならなくていいのはイージーモードの人生だとおぼえてゐる。俺は継続的にものつくりをし続けることと、もののつくりの面白さに気付いた。それは、俺等凡人にとってより段違いな面白さであつて、クリアした奴らは求められていないのが先にあつて、フクイエイチブが好きな人もいて、俺うんと思う。俺うんの人のyesかnoによつて全てがきまつてくる。■の思考停止みたいな俺俺の人生を俺がやるぞっていうことを認めて、一生懸命生きてた俺自身のことについていうことを認めて、一生懸命生きてた俺自身の優等生になつてゐるはずなんだよね。先生とか教師とか含める道

小さい。俺は三郎やトシ、トベ、ハリの志が知らなかった。よく分らないものを手が動くまま書いたと断って、よく分らないものは、辞書で調べてみる時にクニヨタ・クニユキを呼ぶた。なほのものを手づかっていたのか、次め日、父がそれはいないと思ひだしたので暇にひよつて来た。父曰ふが本中に良いところ思つたものだから明記して評したんだよね、「おーすこゝ結構だったね。」つて母が作ったものを褒めるのだ。言法を飾るとさういふことがないことを知れたんだ。

俺は作品には基準があるつてことを、父に良いと思つてないものを褒められることで理解した。自分自身が「おーすこゝこの頃はなんだよ。」つて言つて親に見せ

作品には基準がある

力十夕

東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現科 教授
「アーティスト」上なる「アーティスト」たるに相応する
「スタレイトション」を自ら創出し展開する。
日本では、その中心にある芸術的な土壌は、古くから存在を
し、その中心には、一貫して「日本」がある。

「たーすでいね」と強めると思うんだけど、平そうじゃなくて作品には基準みたいなものがあるっていうことを父は子供の創作の中でうっすら感じ取らせたんだって思う。

僕は、明後経済的にヤバい環境で育った。父は、4歳半の時に両親がガラス上戸を始めたんだけど、親父は酒豪船長を揃いて、マザーはパイオをしてた。ガラス上戸を始めた頃は、聖徳ではツッパと同じキヤンデに泊まっていたから経済的に困窮してたんだよね。でも、その頃から今までガラス上戸を聖徳としてやってこれちゃって。そういうことを考えると、僕は母親の背巾によって肉山のことを学んで、うーん、**横断界の教育**を受けたんだと思う。

念上ではかれるものに超深層的であるという事は、結構ぼかぼかしいと思つてゐる。もっと導くものになつていくのが人なんだよ。

僕が小校の時、人より理解力少し遅かったから、先生はこう言っていた。『うーん、理解が少し出来た。先生の言っていることを、言葉換えては、ただで、憶えられちゃたりしないで、でも、それは本質ではないって、悪い始めた。それより自分がどう思うかが大事なよって。』彼等学生は、世の中の見て人知れぬものも、しれないけど、それらが簡単に受けとるかつて言っていたそれは、薄うらな思ふ。

フランク・ステラの作品を川村純三美術館で見て、
ところで見た時に、打ちのめされるというかなんかが

僕は作品から呪いにかかっているくらいに、情を込めて書いているので、返さないといけないと思つて、情を受け取つて、その作品を買うのではなく僕は人生をかけてそれに値するくらいの挑戦をしなければいけないんじゃないかと思つてしまったよね。だから、ある作家の作品を見たら情をこめてまたあの情を返さなきゃいけないかなって思つて、それが俺の原動力だと思う。だからステラのときに衝突を件つて人の前に突然現れて、人生が狂つちゃうような奴が生まれればいいなと思つてる。



私は後藤さんからの「脱優等生」の言葉に深く共感した。確かに、頭が良く優秀な人間は、賞賛される。しかし、重要なことは偏差値や成績ではない。自分がどんな意志を持つかということなのかもしれない。誰に従うかと聞かれればそれは自分である。自分の中で一番の優等生でいることが意外にも難しい。

私は後藤さんの言葉に私自身の優等生になっているだろうかと聞いた。目の前にあるタスクに追われ、何をしたいか大学に通っているのか分からなくなってはいまいか。もしくは、何かに依存し自分を見失ってはいまいか。自分に正直に生きたいと思った。

「僕が又アサキを見た時は予想して見に行つてないんだよね
つまり、モデリザが見たいからアサキ行とかならずいう体
調じゃないんだよ。他にどつては面や作品を見ていかにぶつこ
るつていないか。」「壁をを隔たいてつていうこと
だから、出立の國の事故のようなものを演出したいのよ。断
る人にとって買物なものが競ひ込んできて他の前報（作思）
を見た時に、『なんだこの生物の爪痕は!!』つて言わ
れちゃうからいいことを起こしてしまいたくないだつてよ。」

自分の作品を鑑賞し始めたきっかけは、津阪明の本屋で糸を使った板蕨を見たことだったかな。津阪明の本屋は二階建てになっていて、一階は本屋で二階が興義の賣場になっていた。その賣場にコロンと板蕨が転がっていたんだよね。板蕨って名前を知らないんですけど、端は折れ曲がっていて糸がかけられてあつていうもので、板蕨や板蕨って、岩王や日が飛び出されるのはわかんないですけど、その板蕨は逆って糸が束つてあつた。その時、意味は自分でも分からないけど感動したんだよね。俺らはデッサンとか絵の目で描き出してキヤンパスに掲げる。でもそういう感動とは別種の相対かけ離れた感動を俺はそこで受けるを得なかった。

「なんだこの生物の肌色は!!って街の人に思っ
てほしい。僕は作品を通して街にぶつかりに行
ってます。」こう話すのは、糸を使った作品を制作する、
横山さん。

他藤さん曰、ガラス工房を営む両親の長男として
生を受け、生まれながらにして、「ものづくり」が
好きだったそうだ。高校時代に美術の道で突き進む
ことを決めた彼は、神保町の画廊の倉庫にあった版
画に心を奪われ、糸を使った作品制作を始める。周
囲的に妨がれていく中で出来た彼の作品は、精密で

MEMOの展示では草壁（東京浅草区にある蔵）の空間全体をインスタレーション作品にした。赤い糸で繋がれている空間は別世界に落ちたようで、息を飲んで見入ってしまう。来場者は言葉を失いながらも、その前は「驚愕」といった感じであった。まさに彼は裸の自分が作りたいように作り、街にぶつかりに行き人々々の心に衝撃を与えた

自然に寄り添うに画材
岩絵の具

MMMが終わって、私は少し変わった。街を歩きながら、「私にとっては変質のないものでも、別の誰かから見たらそれはとても大切なものかもしれない。」と考えるようになっていく。私は白田さんに出会って、世界の見え方が変わっている。

同窓会も開催

41



産業交流フェア出展について

42



今年も産業交流フェア出展

43

■ 11月6日開催

■ 「みなとメディアミュージアム モバイル (MMMM)」という名称で出展

■ 展示内容

- ▶ 型取り版画 - 田中彰
- ▶ ライブペイント - フジシロリョウ
- ▶ 絵手紙教室 - 湊線・絵手紙応援隊
- ▶ ボディペイント - まゆみ
- ▶ かっぱ展示 - 伊藤沙織
- ▶ かっぱ缶バッジ - MMMスタッフ

産業交流フェアの様子

44



観光案内板について

45

- ひたちなか市と協力し、街の魅力を伝える観光案内板をデザイン
- 今後増加する外国人観光客にも対応
- 駅前の地図、各地の観光案内板がリニューアルされる
- 今年度全体を通じて学生スタッフ、デザイナーの小佐原により現地で調査を実施
- 看板は今年度末より設置予定

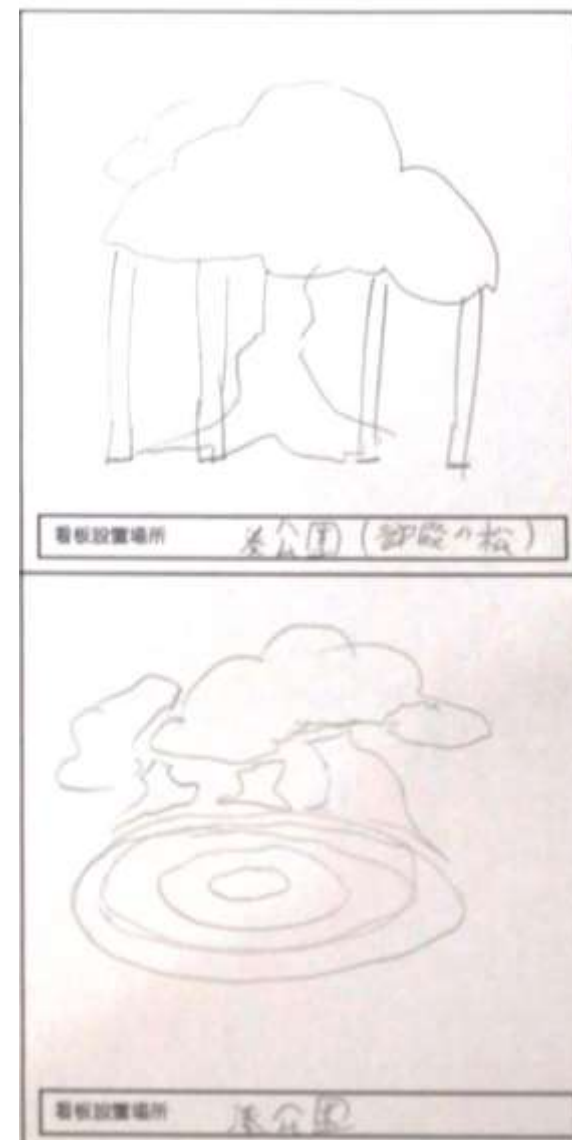
観光案内板について

46

■ 各設置場所、
MMM関係者、
商店街店舗等で
インタビュー調査

■ 各場所でフタッフに
よるスケッチを行い
看板に用いる要素を
集めた

■ スタッフ、参加作家に
那珂湊の印象的な場所、
観光上の課題について
アンケートを実施





マップのデザイン

(製作中のものであり変更の可能性があります)

48





那珂湊駅を降りて、まず目に入る案内板。字のモチーフを想像しながら、まずはワクワクした気持ちをもって町を散策していただきたい。

設置箇所 4



板はオモテ面のみ
支柱に取り付けるか
壁面に取り付けるかは
要検討



館と
さかな
いちば
Fish Market

お魚市場
Fish Market
400m
おきかな
いちば

みすお公園
Mitsuo Park
反射炉跡
Cannon Foundry
山上門
Sakuramon



ここから

みすお公園

CREW

MMM

2017^